



令和7年度全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック結果について



4月17日(木)、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。また、三重県内の小学校4、5年生において実施する「みえスタディ・チェック」も同日に実施しました。その結果が公表されたことを受け、学力・学習状況についての結果分析等を行いました。その結果分析等に基づいた本校児童の現状をお知らせします。

令和7年度全国学力・学習状況調査(6年)からみられる本校児童の様子

【国語】全体的に無解答率が低く、選択式の問題ではほぼ0%でした。記述式の問題については、正答率が低く、条件に合わせて理由を述べたりまとめたりする力に課題がみられました。

〈強み〉「言葉の特徴や使い方に関する事項(漢字の書き取り)」は、正答率70%となり、他の事項と比較すると正答率が高い結果となりました。漢字の書き取りについては、継続的に学習を行うことで、定着を図ることにつながっていると考えます。

〈弱み〉「【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する(校内20.0%/県62.6%/全国63.1%)」では、正答率が最も低かったです。【話し合いの様子】と【話し合いの記録】にある情報を比べながら読むことで、正答を導き出すことができる問題です。資料と資料を関係づけること、図による語句と語句の関係の表し方を読み解く力に課題があると考えられます。また、「【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】に基に詳しく書く(校内32.0%/県62.6%/全国61.3%)」では、条件(資料の言葉を使うこと、文字数の制限に合わせてまとめること)において、記述する必要があります。無解答の児童が一定数あることから、抽象的な言葉を具体的な言葉で表現することだけでなく、資料の言葉を使ったり文字数の制限に合わせてまとめる力の定着に課題があると考えられます。

【算数】基本的な四則演算や測定の仕方については、概ね知識として定着している児童が多い結果となりました。国語と同様に、式や言葉を用いて記述する問題については、正答率が低くなっているとともに無解答の児童も多くみられたことから、順を追って説明する力に課題があると考えられます。

〈強み〉「はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む(校内68.0%/県60.3%/全国60.9%)」では、全国平均値を上回りました。数字が示されためもりとめもりの間がどれだけの重さを表しているのかを見極め、解答することができたことから、測定領域の基本的な知識が定着している児童が多いと考えられます。また、「 $1/2 + 1/3$ を計算する(校内68.0%/県81.6%/全国81.3%)」では、全国平均値と比べると低い結果ですが、正答となる児童も一定数見られたことから、分数の加法の意味を理解したうえで、繰り返し学習が習得につながると考えられます。

〈弱み〉「方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ(校内12.0%/県44.9%/全国50.2%)」では、台形を複数、選択する問題であるにもかかわらず、1つしか選択しなかった児童が多くみられました。図形を反転させたり回転させたりして考えることに課題があると考えられます。また、「 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数がいくつ分になるかを書く(校内8.0%/県21.7%/全国23.0%)」では、共通する単位分数(通分)の意味の理解に課題があることに加え、数字や言葉を使って記述することにも課題があると考えられます。授業の中で、すべての領域において、意味の理解の定着を図ったうえで、数学用語や数字、数式を使って説明する力をつけていく必要があると考えます。

【理科】全体的に無解答率が低く、最後まであきらめずに問題に取り組む姿が見られました。国語や算数と同様に、記述式の問題については、無解答の児童が一定数みられることから、実験や観察などにおいて、条件を整理して理解させるとともに、予想を立てたり結果を考察したりする際に、自分の言葉でまとめる力に課題があると考えられます。

〈強み〉【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ(校内 56.0%/県 76.4%/全国 77.8%)」では、他の問題と比べ、正答率が一番高い結果となりました。条件を変えたときにどのような結果になるのかを、わかっている情報から予想することができました。

〈弱み〉「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ(校内 8.0%/県 9.5%/全国 10.8%)」では、全国的にも正答率が低い問題ではありますが、金属の種類の違いによる性質の違いに関する知識の定着に課題があると考えられます。加えて、「選択肢を何回使ってもよい」という問題の解き方についても、日ごろの授業から問題文を読み取る力をつける必要があると考えます。また、「ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ(校内 24.0%/県 57.4%/全国 62.0%)」では、「適した温度(室温)が必要かを調べる」と問われていることから、条件の中で「温度」に着目して選択したのち、その他の条件が揃っているものを選択する必要があります。実験や観察において、揃えておく条件と変える条件を理解させる必要があると考えます。

みえスタディ・チェックからみられる自校児童・生徒の特徴(強みと弱み)

【国語】

〈強み〉4年[2二]単文(4語文)の中から主語を選ぶ(校内 90.9%/市 74.5%/県 72.8%)

5年[4一]複文の中から指定された述語に対応する主語を選ぶ(校内 64.3%/市 37.7%/県 44.1%)
いずれも文の中から(述語に対応する)主語を見つける問題です。複文になっているので間違えてしまう児童もみられましたが、市、県平均値よりも上回る結果となりました。R4以降、言語事項の復習を繰り返し学習に取り入れてきたことが一定の成果として現れたと考えられます。

〈弱み〉4年[5二]話し合いの内容を正確にとらえてまとめる(校内 18.2%/市 19.1%/県 27.9%)

5年[6二]相手や目的に応じて筋道を立てて話すことができる(校内 0.0%/市 7.1%/県 14.8%)
いずれも記述式で、無答率は4年生で 18.2%、5年生で 28.6%でした。話し合いの内容やアンケート結果からわかることとそれを支える理由を、明確に記述することに課題があると考えられます。

【算数】

〈強み〉4年[3]兄の折り紙の枚数が弟の折り紙の枚数の何倍かを求める(校内 45.5%/市 32.5%/県 38.0%)

5年[4]児童 30 人が1つの長いすに 4 人ずつ座るときの必要な長いすの数を求める式と答えを選択する(校内 85.7%/市 60.7%/県 66.5%)

整数の除法の意味を理解することができるとともに、除法が用いられる場面について、式や数値の意味を解釈する力がついていると考えられます。

〈弱み〉4年[4]答えが $12 \div 3$ の式で求められる問題を全て選択する(校内 45.5%/市 32.5%/県 38.0%)

5年[5]答えが $1.5 \div 3$ の式で求められる問題を全て選択する(校内 21.4%/市 27.4%/県 33.9%)

整数や小数の除法の意味について理解しているかをみる問題。1にあたる大きさを求めるときに除法を活用するという考え方に苦手意識があると考えられます。

【理科】

〈強み〉5年[6(4)]空気のあたたまり方について理解し、部屋全体をはやくあたためるためにはエアコンの風向きを下向きにすればよい理由を記述する(校内 50.0%/市 22.6%/県 32.2%)

理科では記述式問題が2問出題され、いずれも市・県の平均正答率を上回りました。あたためられた空気が上に動くという性質を理解したうえで、その理由を記述することができました。

〈弱み〉5年[2(2)]気温の正しい測り方を選択する(校内 14.3%/市 26.7%/県 33.2%)

正答率が一番低い結果となりました。理科の学習において、継続して知識が定着するよう気温を測る場面で測り方を確認するなど、体験的な活動場面での定着を図る必要があると考えます。

学習・生活状況調査からみられる本校児童の様子

○6年生の児童質問紙(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか」について、肯定的解答が95.9%となり全国・県平均値を上回りました。日常の学校生活において、同学年だけでなく違う学年の仲間に対しても積極的に声をかけたり、自分から進んで仕事を引き受けようとしたりする姿が結果につながっていると考えられます。



○6年生の児童質問紙(17)(19)より、「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について。平日は1時間未満が45%(県49%/全国46%)で県・全国平均並みとなりました。4年・5年の意識調査結果では、「自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的な回答は7割以上と市平均並みでしたが、共通する質問項目(20)(21)については、平日の学習時間1時間未満の児童が多くみられました(平日:4年生46%(市59%)、5年生92%(市58%)、休日:4年生61%(市55%)、5年生78%(市57%))。平日、休日ともに宿題や自主学習などへの取り組みを通して、学年に応じて学習に向かう習慣をつけることで、児童一人ひとりの実態に応じた学び方を身に付けていく必要があると考えます。

○4年・5年の意識調査結果(3)「普段(平日)、1日当たりどのくらいゲームをするか」について、2時間以上と答えた児童は4年生46%(市45%)、5年生71%(市49%)でした。また、(4)「普段(平日)、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」について、2時間以上と答えた児童は4年生53%(市27%)、5年生35%(市31%)でした。6年生を含め、昨年度以前よりゲームや動画視聴に時間を費やしている傾向がみられます。

○6年の児童質問紙(21)、4年・5年の意識調査結果(28)「普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」について、10分未満と答えた児童は、6年生で58%(県49%/全国46%)、5年生36%(市42%)、4年生で54%(市41%)でした。「読書が好きですか」に対して肯定的な回答は多いものの、読書をするのが習慣にはなっていない児童も多いと考えられます。

結果分析を踏まえた指導の工夫と改善について

調査結果等を受け、本校の現状として、題意をとらえきれないまま問題解決に向かうことや学習した用語等を用いながら順を追って説明する力など、さらに伸ばしていくことができる状況がみえてきました。本校児童の実態を踏まえ、発達段階を考慮しながら、以下の点について学校教育活動の中で、取り組みを進めていきたいと考えます。

○授業の中で、キーワードを用いたり文字数を制限したりしながらまとめる活動を行う。

→自分の思いや考えを整理し、具体的に書いたり抽象的にまとめたりする力を伸ばす。

○授業の中で、ノートやワークシートだけでなく、ICT機器を効果的に活用する。

→個に応じた学び方、自分で学び方を選択する力を伸ばす。

○理科の学習において、1つの実験器具を1~2人で活用できる場づくりを行う。

→活動の時間と体験する機会を担保し、子ども一人ひとりの実感を伴った理解を促す。

○「家庭学習の手引き」に基づき、宿題や自主学習等において学ぶ習慣を身に付ける。

→学年に応じて、自分に合った学び方を身に付けることができる。

○年2回の読書週間や「生活リズムチェックシート」を活用し、読書を励行する。

→定期的に読書をする機会を設定し、そのおもしろさに触れることができる。



今回の結果を踏まえ、日常の授業や学校生活の場面において、取り組みのめあてを明確に提示し、活動の振り返りを通して、子どもたちに「自分はこう考えるのか」「こんな場面ならどう行動するのか」など、子どもたち一人ひとりの考えや思いを持たせることが大切だと考えています。自分の思いや考えを書いたり話したりしながら整理したり、相手の思いや考えを聴いたりすることで、子どもたちの力を伸ばすことにつなげていきたいと思います。引き続き、ご家庭におかれましても、子どもたちが自分で自分の思いや考えを伝えたり、自分なりの学習習慣を身に付けることができるよう、引き続き、ご協力をよろしくお願いします。

(文責 岡本浩樹)